

1

次の文章は、中学一年生の山口鈴花と西澤一人が放課後の音楽室でやりとりをしている場面である。山口は、音楽教諭の間柴先生に指名され、西澤、中原健太、高田千秋と共に、卒業式でリコーダーの合奏をすることに成り、その練習に励んでいた。合奏に使うリコーダーは学校にあるバロック式と呼ばれる本格的なもので、山口と西澤はそれぞれ、昼休みや放課後に間柴先生の個人レッスンを受けていた。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

注意② 字数が指定されている設問では、「」や「」も一まず使いなさい。

受験番号
算用数字

「山口、今、暇ある？」
西澤の問いにうなずいた。私も練習に来たと言う前に「アリア、吹いてくれる？」と西澤は頼んだ。

「いいよ」

西澤が出してきたリコーダー・ケースにソプラノが入っている。私は組み立てて、西澤の隣に座った。不思議な気がした。ソプラノとバスの間には、いつも、アルトとテナーが入る。一番離れている二人なのだ。音も一番離れている。ソプラノとバスだけで吹くアリアは、それも、どこか不思議な感じがした。違う曲のような。足りない音が多すぎて、スカスカのような。

「うん」

でも、西澤は満足そうにうなずいた。

「やっぱ、吹きやすい。いつも、おまえの音についていってるからな」

私は思わずため息をもらした。

「私さ、そういうリードする柄じゃないじゃない」

「ガラ？」

「えー、だから、みんなを引っ張るみたいなのさ、千秋のほうが向いてるでしょ。ソプラノさ、千秋のほうがいいんじゃないかって、ずっと思ってる」

「高田はアルトじゃないか」

西澤は当たり前前のことを当たり前前のように言った。

「千秋ならソプラノできるよ。私、アリアがぜんぜんうまく吹けなくて。聴かせる演奏ができなくて。メロディーが歌えないんだ。一生懸命吹いても、なんか、こう、感情表現ができてないんだ」

愚痴というより本音だった。千秋にも言えずにいたことを、なんで西澤にふっとしゃべってしまったのか、わからない。

「ソプラノは、おまえだから」

西澤は、また当たり前前のように言った。こいつ、人の話聞いているのか、理解してるのか、と、私はムツとした。

⑥ 山口のソプラノだから、俺らについていけない」

黒い四角い縁の眼鏡の奥の目は、淡々としていた。

「もう一回」

西澤はうながすようにうなずいた。

——山口のソプラノだから。

西澤の低い声が、しんと 胸にしみた。

私のソプラノ？

吹きながら考えていた。

なんだろう、それは。

西澤が、中原が、千秋が、まず、私のソプラノに合わせてそれぞれ音を出す。その主旋律を担う役として、とりあえず「正確」でいいのかもしれない。信頼があるのなら。西澤がそう言うのなら。

演奏会じゃないんだから。私の、私たちの演奏を聴くために人が集まるんじゃないから。主役は、卒業生。私たちは、三年生を気持ち良く送り出すための役割の一つに過ぎない。卒業証書授与の時のBGM。一番大事なのは、途切れないこと。間違えないこと。安定していること。むしろ目立ち過ぎないほうがいい。控え目に、ひそかに美しいのがいい。そう思うと、何かがふつきれた。

うまく吹こうという力みがとれた時、長く伸ばしたゆったりした音の中に静かな感情がみなぎった。最初のミの音がかつてなく透明に響いた。吹きながら、自分自身が自分の出した音の中に吸われていくような不思議な集中。続く4度高いラの音がすつきりと出た。トリルがただの飾りじゃなくて、細かい2音の繰り返しにきりつとした意味がある。情緒豊かに吹くことと、正しい技術で吹くことは、違う作業じゃないんだと思う。

西澤が吹きながら、私の顔を見た。彼が ⑤ 私の変化を感じ取ったことを、私はわかった。

出典 佐藤多佳子『FOUR』

(注) アリア：バッハ作曲の『G線上のアリア』という曲のこと。
トリル：二つの音を急速に反復させる演奏法。

① ——の部分⑥・⑦の漢字の読みを書きなさい。

② 「私は思わずため息をもらした」とあるが、このときの山口の心情を説明した次の文の に入れるのに適切なことばを、四十字以内で書きなさい。

アリアを吹くことに関して、山口は、 ので、「いつも、おまえの音についていってる」という西澤のことばを素直に受けとめられずにいる。

③ 「山口のソプラノだから、俺らについていけない」とあるが、この西澤のことばがもたらした山口の変化について説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 西澤と思いを共有できないことを思い知らされ、自分たちの演奏は卒業式の主役になれないことに気づかされた。

イ 自分が無意識のうちに西澤を信頼していたことに気づかさず、西澤に本音を話した理由を理解するようになった。

ウ 自分の演奏について考えさせられ、自分たちの演奏が卒業式の主役ではないことに気づいて力みがとれた。

エ 千秋ではなく自分が主旋律を担う役を任された理由に気づかされ、うまく吹こうという思いを持つようになった。

④ 「胸にしみた」とあるが、「胸にしみる」と似たような意味を表すことばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 不意を突かれる

イ 感銘を受ける

ウ 辛酸をなめる

エ 見得を切る

⑤ 「吹きながら、自分自身が自分の出した音の中に吸われていくような不思議な集中」とあるが、この部分の表現について説明した次の文の X に入れる表現技法として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。また、 Y に入れるのに適当なことばを、文章中から十一文字で抜き出して書きなさい。

この部分には X が用いられており、山口は迷いから解放され、演奏に Y ことが強調されている。

ア 体言止め

イ 暗喩法

ウ 擬人法

エ 倒置法

⑥ 「私の変化」とあるが、その内容について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。自分たちの演奏を聴くために人が集まるわけではないと聞き直ることで、個々の音をしっかりと出せるようになった。イ 控え目でひそかに美しい演奏を心がけたことで、卒業生を気持ち良く送り出そうとする思いを表現することができた。

ウ ソプラノである自分が演奏を引っ張らなければならないと自覚したことで、細かい音にも意味を込めることができた。

エ 正しい技術で正確に吹くことを意識したことで、自分が吹く音の中に自然に感情を込めることができるようになった。

令和三年度 岡山学芸館高等学校 選抜一期入試【二月二十八日】 問題（国語）

2

次の文章は、心理学者の榎本博明えのほんひろあきが書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

だれでも簡単に発信できる時代というのは、ある意味、非常に恐ろしい時代でもある。発信するからには、それがどのような効果を持つかを知っておくことが大切だ。

発信は、その人の教養や能力、人間性の深みや軽薄さを白日のもとにさらす。発信することで知識・教養の乏しさや思考の浅さ、内面の乏しさが露呈してしまうのに、そうしたことは無頓着にわざわざ余計なことを発信して、トラブルになってしまいうケースがある。

ブログやツイッター、フェイスブックで、自分の日々の思いを発信する。その際に、日記を書くようなつもりで、^①言いたいことを言っただけだったり、友だちに自分の思いをわかってほしいという感じでそのときどきの思いをつぶやくというのなら、それでいい。問題なのは、自分がいかに有能かを示すつもりで発信しているケースだ。

仕事ならみの情報を発信したり、何かちよつと知的なネタを入れて得意げに解説したりする。それで自分の有能さをアピールできたつもりでいる。それによってポジティブな評価が得られ、何かのメリットにつながると思ひ込んでいる。だが、^②多くの場合、^③そうした発信は逆効果に終わる。なぜだろうか。

これは、ちよつと想像してみればわかる。こちらがすでに知っていることを、いかにも「新しい知識や理論を自分は知っている」といった感じで得意げに解説する人がいたら、どんな気持ちになるだろうか。少しでもその業界のことを勉強していれば当たり前のようにわかることを、まるで自分がすごい思いつきをしたように吹聴ふきしょうしている人に対して、どんな^④インシヨウを持つだろうか。「薄っぺらくて残念な人だなあ」と思うのではないだろうか。

結局、ちよつとした発信に対して、「すごい！」と感心し、ポジティブな評価をしてくれるのは、その発信者より知識の乏しい人、能力の低い人、勉強をしていない人だけということになる。

だが、そのような人たちから「すごい！」と思われ、ポジティブに評価されることで、何かメリットが生じるだろうか。知識の乏しい人や普段あまりものごとを深く考えない人からポジティブに評価され、何らかのアプローチがあるかもしれない。そういう人に自分の知っている知識を教えてあげたり、発想を解説してあげたりするのも悪くない。相手の役に立ってあげられるし、自分も得意な気持ちになれる。

ただし、ベテランになって人を育てる年頃なら^⑤それも大事なことでだろうが、まだまだ知識を吸収し、力をつけていかなければならない若いうちは、もつと上を見て、自分よりできる人たちから刺激を受けることの方が大事なのではないだろうか。

英会話スクールが流行り出し、アメリカに出かける若者が増えはじめたころ、「これで日本の国際化が進む」という歓迎の声とは裏腹に、「コミュニケーションの道具しか勉強せずに、何の教養もない日本人がどんどん出て行くことで、かえって日本人は中身がないとバカにされるのではないか」という危惧の声もあった。

実際、「アメリカに行つて、現地の人たちから日本の文化について尋ねられても、自国の文化について何も勉強していないし、関心を持ったことさえなかったため、何もまともに答えられなかった」といった話をよく耳にしたものだった。英語が喋れなければ、教養がないこともバレないのだが、なまじっか英語をペラペラ喋れるために、中身の薄さがバレてしまう。これと同じことがネットの時代にも当てはまる。

SNSが発達し、簡単に発信できるようになって、発信者の中身の薄さが周囲にバレバレになるといったことが現に起こっている。本人は、自己アピール、自己宣伝のつもりで積極的に発信しているのだが、前項でも^⑥シテキしたように、よほど目新しい知識・情報やオリジナルな視点でないかぎり、普通に勉強している人たち、じっくりものを考えている人たちにとっては、陳腐な内容になってしまう。

^⑦だれでも簡単に発信できる時代だからこそ、発信することに慎重になるべきだろう。自己アピールのつもりで発信すればするほど、

かえって中身の薄さが周囲にバレてしまうこともあるのだと肝に銘じて。

人間は、自分より器の小さい人物のことは理解できても、自分より器の大きい人物のことはよくわからないものだ。自分よりできない人のことはよく見えても、自分よりできる人のことはよく見えない。中身が充実しないうちに発信することの危険について、しっかり意識しておきたい。

出典 榎本博明『孤独 ひとりのときに、人は磨かれる』
 (注) 吹聴：言いふらすこと。

アプローチ：接触を試みること。
 なまじっか：中途半端に。

SNS：インターネット上で人のつながりを構築するサービスの総称。

① —の部分③・⑥を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「^⑧言い」の活用の種類は、ア～エのうちではどれですか。また、活用形は、オ～クのうちではどれですか。当てはまるものをそれぞれ一つずつ答えなさい。

- ア サ行変格活用 イ 五段活用
- ウ 上一段活用 エ 下一段活用
- オ 未然形 カ 連用形
- キ 連体形 ク 仮定形

③ 「^⑨多くの場合、そうした発信は逆効果に終わる」とあるが、このように筆者が言う理由を説明した次の文のX、Yに入れるのに適当なことをばを、Xは文章中から十二文字で抜き出して書き、Yは二十五文字以内で書きなさい。

自分がXの発信は、「薄っぺらくて残念な人」という評価に終わることが多く、そうでない場合でも、Yしか得られず、何のメリットも生じないから。

④ 「^⑩それ」とあるが、その内容を説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 自分の知識や発想を言語化して、自分の考えを深めること。
- イ 自分より器の小さい人物に、知識や発想を教えること。
- ウ 自分の知識の乏しさを認め、自分よりできる人から学ぶこと。
- エ 自分の有能さを、器の大きい人物のために役立たせること。

⑤ 「^⑪だれでも……慎重になるべきだろう」とあるが、このように筆者が言う理由を説明した次の文の□に入れるのに適当なことをばを、文章中から二十二文字で抜き出して書きなさい。
 自己アピールのつもりで行った発信によって、結果的に、自分の□を周囲にさらしてしまうおそれがあるから。

⑥ この文章の構成と内容の特徴について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 安易に情報を発信することの危険性を読者に想像させた上で、個人的な日々の思いをSNSで発信している現代の若者の傾向を戒めている。

イ コミュニケーションの重要性を具体的に示した上で、SNSで様々な人物と接触することが独自の視点を持つことにつながることを述べている。

ウ 英会話スクールが流行したころの日本の社会と比較することにより、SNSの発達によってもたらされた社会の変化を肯定的に論じている。

エ SNSを利用する際に必要とされる意識を論じることにより、若者は自分を高めることを優先すべきだという主張の説得力が増している。

令和三年度 岡山学芸館高等学校 選抜一期入試【二月二十八日】 問題（国語）

3

次の文章は、松尾芭蕉の俳句を引用しつつ書かれた解説文である。これを読んで、①～③に答えなさい。

受験番号
算用数字

あら何ともなや昨日は過ぎてふくと汁

芭蕉『江戸三吟』

鎌倉を生きて出でけむ初鯉

〔葛の松原〕

ああ、なんともなくてよかったことだ、昨日河豚汁を食べたのもし毒に当たったら死んでしまうと思いい心配していたが、もう一日経ったので大丈夫であつたらしい。ほっとしたことであるよ。延宝五年（一六七七）芭蕉三十四歳の時の句。蕉風開眼以前の作品だが、風格があつて、さすがと思わされる。

「あら何ともなや」は、謡曲でしばしば用いられる表現。特に「芦刈」には「あら何ともなや 候。（中略）昨日と過ぎ今日と暮れ」とあり、当該の句の場合、これを踏まえているかと考えられる。

「ふくと汁」は、河豚の身が入った味噌汁のことで、冬の季語。寛永二十年（一六四三）に刊行された『料理物語』には、「ふくと汁は、皮をはぎ、腸を捨て、頭にある隠し肝をよく取りて、血気のなきほどよく洗ひ切りて、まづどぶに浸けて置く。すみ酒も入れ候。さて下地は中味噌より少し薄くして、煮えたち候て魚を入れ、一泡にてどぶをさし、塩加減吸ひ合はせ出だし候なり。吸口、にんにく・なすび」とある。

なお、この句には、「寒さしさつて足の先迄」（信章〈素堂〉）という付句があり、河豚汁を食すると、足の先まで暖かくなるとする。芭蕉は、河豚汁をたぶんご馳走になつて、そのあとでふと **X** が湧き上がつてきたのだろう。もしかしたら、本当は食べたくなかつたが、大事なお得意様が勧めてくれたもので、いやいやながら食べたのかもしれない。死の恐怖といったものは日常のあれこれの中に隠蔽されていて、日頃はさほど感じないものなのだろうが、なにかのはずみに現れ出たりもする。この時、芭蕉もそうだったのかもしれない。

日々を振り返つてみると、一日一日無事に過ごせているのは不思議なことである気もしてくる。河豚のような危険な食べ物でなくとも、いろいろな毒物や体に悪い食べ物はこの世にたくさんあるし、食べ物に限らず、ふとした拍子に命を落とす原因は、可能性だけ考えたら日々の暮らしの中に満ちている。ただ、そう思つてあまりに悲觀的になつては到底生きていけない。だから大体の人は、 **Y** と思つて毎日を過ごしているのである。実際、ほとんどの場合は死にまで至らずなんとか過ごせていると言つてよいのかもしれない。そういう意味では人の体（たぶん心も）は、それなりに遅くできていく。

この句は、人の生というものが右のような二つの極の間に成り立っていることをよく表していると思ふ。生きていく上での安定した部分と、その狭間に潜んでいる不安定な部分と、二つの間を揺れ動きながら、誰もが日々を生きているのだろうし、多少の変動はあつたとしても一定の範囲内に収まっていれば問題ない。「まあなんとかなるさ」とか「いろいろあつても問題ないよ」という部分がないと生きる活力が失われてしまうし、「少し心配だ」「大丈夫だろうか」という部分も多少はないと危機を察知したり自己を反省したりできないので、どちらもある程度はあつてほしい。要は、平衡感覚を上手にとることなのである。

野ざらしを心に風のしむ身かな

という芭蕉の句が思い起こされる。四十一歳の時、『野ざらし紀行』の旅立ちに当たつて、自らを野に晒された人骨と観じて、それでもなお旅へと駆り立てられる我が思いを述べたもの。死とは一個の生命体の終結としてしかありえず、それ以上でも以下でもない。この句からは、限りある命に正面から向き合おうとする、芭蕉のへりくだつた気持ちを読み取れると思う。河豚汁を詠んだ時にはまだ生と死の間で葛藤する気持ちが表現されていたわけだが、野ざらしを詠んだ時は、生死を超えたところにある何かを掴んでいる。そのことは、人間以外の動物について詠んだ後年の句からもうかがえる。

江戸に搬送されてきた初鯉の新鮮さから察するに、鎌倉を出た時にはまだ生きていたのだろう、というこの句には、鯉の身体そのものを通して直接に生と死のあわいを見据える感覚が発揮されている。この初鯉はほぼ死んでいるのだろうが、次の海鼠はまだ生きている。

生きながら一つに氷る海鼠哉

〔続別座敷〕

寒さが極限にまで達して、何匹かの海鼠は生きながら一個の氷塊と化してしまつた。動物の身体を一個の物体として捉えようとする姿勢である。ここにあるのは、死への甘い感傷など入り込む余地のない、生命のありかたそのものをまるごと受け入れようとする透徹したまなざしなのだ。

出典 鈴木健一『人生をひもとく日本の古典 第1巻 からだ』

（注）蕉風：松尾芭蕉の俳句に見られる独特の作風。

謡曲：能の詞章。演劇における脚本に相当する部分。

どぶ…：にがり酒。

すみ酒…：にがりのない酒。

信章（素堂）：松尾芭蕉と親交のあつた俳人、山口素堂のこと。

付句：前の句に続けて詠まれる句。

あわい：間。

透徹：澄みきっていること。

① 「候」とあるが、「さうらふ」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

- ② **X**、**Y** にそれぞれ入れることばの組み合わせとして最も適当なのは、**A**、**E**のうちではどれですか。一つ答えなさい。
- A** X 安心する気持ち Y まあ大丈夫だろう
 - イ** X 安心する気持ち Y はたして大丈夫か
 - ウ** X 不安な気持ち Y まあ大丈夫だろう
 - エ** X 不安な気持ち Y はたして大丈夫か

- ③ 解説文を授業で学習した中学生の健二さんは、学習したことを次のようなレポートにまとめた。 **I**、**II**、**III**、**IV** に入れるのに適当なことばを、 **I** は七字、**II** は十字、**III** は九字で、それぞれ解説文から抜き出して書き、**IV** は解説文のことばを使って十五字以内で書きなさい。

【健二さんのレポート】

「解説文中に引用された俳句の共通点」

松尾芭蕉の、 **I** に対する見方が表れている。

「解説文中に引用された俳句の違い」

「あら何ともなや昨日は過ぎてふくと汁」からは、河豚汁を食べたことで、ふと死の恐怖を感じながらも、悲觀的になりすぎない芭蕉の心情がうかがえる。つまり、日常における生死の **II** ことの大切さが読み取れる。

それに対し、「野ざらしを心に風のしむ身かな」には、自分自身の生死を超えたところにある何かを掴んだ芭蕉の **III** が表れている。

そして、「鎌倉を生きて出でけむ初鯉」、「生きながら一つに氷る海鼠哉」の二句では、人間以外の動物の身体をありのまま詠むことによつて、生と死のあわいを見据える感覚や、生命を **IV** が表れている。

4 四人の中学生が、部活動に関する問題をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

雄大 昨日の新聞記事によると、中学校や高校の部活動について、社会的な議論が活発になってきているそうだね。

明子 その記事は私も読んだよ。外部の方に指導をお願いしたり、複数の学校が合同で活動したりすることで、先生方にかかる負担を軽減しようという提言が興味深かったな。

陽太 我が校でも、生徒の部活動に関して、生徒会が実施した調査の結果が発表されているね。【資料Ⅰ】を見ると、そこから考えると、勉強以外の活動に関して、生徒のニーズが多様化しているのだと思うな。

由美 そうだね。運動系の部活動の場合だと、記録や勝利を追求したい人もいれば、気軽に体を動かすことを楽しみたい人もあるよね。そのような目的意識の違いは、文化系の部活動にもあるだろうね。

雄大 でも、部活動の一番の意義は、仲間と協調することではないのかな。【資料Ⅱ】にも、そのことは表れているよ。

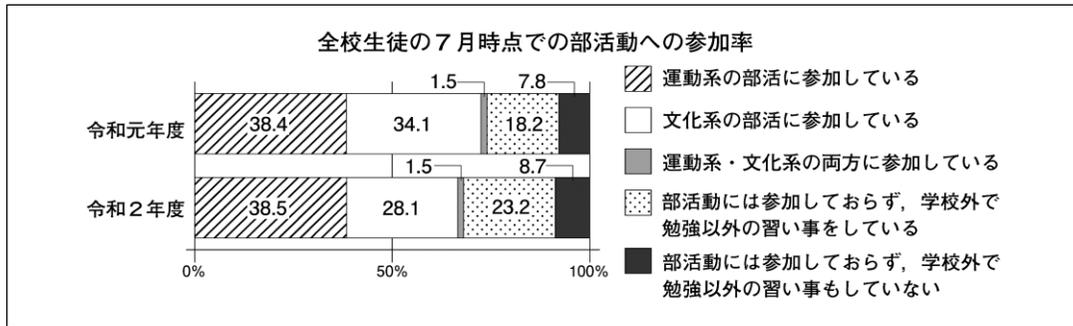
明子 確かにそれも大切だけれど、部活動に参加していない生徒の思いも考えると、自分がやりたいことが学校の部活動ではできなかったというケースや、部の体質が合わずに退部してしまったというケースもあるのではないかな。

陽太 学校外で有意義な活動ができている人は、その活動を続けていけばいいね。でも、そのような場がない人をはじめとして、中学校の部活動の場をもっと有意義に活用していけるようにするためには、どういう案が考えられるかな。

由美 【資料Ⅲ】を見ると、

Y

【資料Ⅰ】



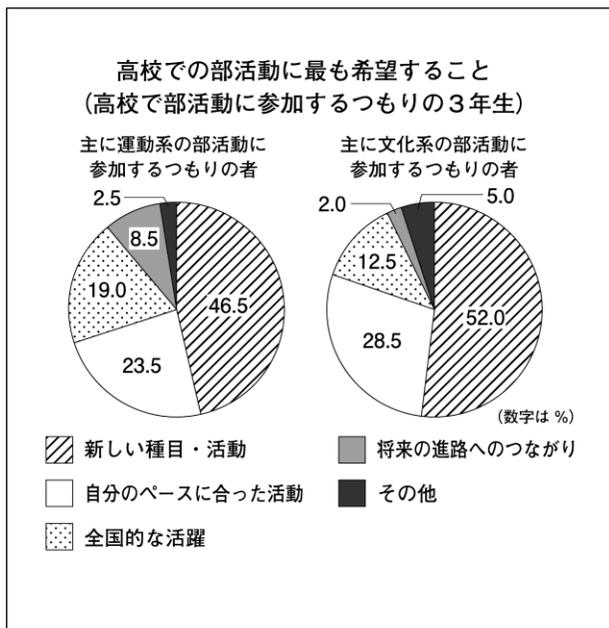
【資料Ⅱ】

あなたにとって最も大きい部活動の意義（部活動に参加している生徒）

	仲間と協調すること	活動を楽しむこと	心身を鍛えること	その他
運動系の部活動参加者	49.2	24.2	24.0	2.6
文化系の部活動参加者	51.0	33.3	13.9	1.8
両方の部活動参加者	50.0	25.0	25.0	0.0

(数字は%)

【資料Ⅲ】



④ 由美さんの発言の Y に入れるのに適当な内容を、条件に従って六十字以上八十字以内で書きなさい。

条件

- 二文に分けて書き、一文目に、【資料Ⅲ】からわかることを書くこと。
- 二文目に、中学校の部活動の場をもっと有意義に活用していけるようにするためにはどうすればよいかを、「だから」に続けて書くこと。

※資料の数値は使わなくてもよいが、数値を使う場合は左の例を参考にして表記すること。

(例) 35.0 %

① 「勝利」とあるが、「勝利」の対義語を漢字二字で書きなさい。

② 陽太さんの意見が論理的なものとなるために、X に入れるのに最も適当なのは、A～Eのうちではどれですか。一つ答えなさい。

A 令和元年度と令和2年度を比べると、中学校の部活動に参加している人の割合はほとんど変わっていないね

I 令和元年度と比べて、令和2年度は文化系の部活動に参加している人の割合が6%低くなっているね

ウ 令和元年度も令和2年度も、学校の部活動と学校外での勉強以外の習い事を両立している人がいるようだね

エ 令和元年度と比べて、令和2年度は学校外で勉強以外の習い事をしていない人の割合が5%高くなっているね

③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、A～Eのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

A 明子は新聞記事の話題から自分たちの学校の話題に話を交えることで、話し合いのテーマを明確化している。

I 由美は運動系の部活動と文化系の部活動の違いを示すことで、自分の考えに説得力を持たせようとしている。

ウ 雄大は資料から読み取った情報と自分自身の経験を照らし合わせながら、他の人の発言に質問をしている。

エ 明子は雄大が述べた意見に理解を示しながらも、より広い視点から考えて陽太や由美の意見に賛同している。

オ 陽太はそれまでの話し合いの流れを踏まえて自分の考えを述べながら、前向きな結論へ導こうとしている。